

ようこそアカウンティング アカデミーへ

このたびはサンプルファイルをダウンロードしていただきありがとうございます。アカウンティング・アカデミーは、「受講生が最小の負担で簿記を学習できる」ことを理念とし、受講生の立場に立って運営することを目標としています。以下、アカウンティング・アカデミーの特徴を少し紹介させていただきます。

- シンプルに理解しよう！

簿記の基本は仕訳です。教材はあらかじめ仕訳を徹底的にマスターするように作成され、それをもとに講義、問題の解説が行われます。比較的短時間で簿記の本質を理解することができます。

- ムダのない教材

簿記検定試験に合格するのに必要十分な教材をあらかじめ厳選して作成しています。受講生にムダな負担をおかけすることのないようにカリキュラムが組まれています。たくさん問題を解くよりも、基本的事項を繰り返して学習の方が簿記の場合は効果的です。何回も覚えるまで教材を繰り返し学習して頂きたいと思っております。短時間で効率的に学習できる方が望ましい・・・ですよ！

- 24時間質問を受け付けています

簿記の学習が進むにつれ、分からないことや理解が不十分な部分が必ず出てきます。そこで、アカウンティングアカデミーでは24時間インターネットで質問を受け付けます。受講生の方には安心して学習していただけます。

- 会計士・税理士が教材の作成・講師を担当しています

アカウンティング・アカデミー教材は税理士・会計士により作成されています。

ご不明な点又はご質問があれば、お気軽にご質問ください。

アカウンティング・アカデミー
 管理・運営 / 有限会社ヒューマンウェブ
 TEL 06(4792)3000 FAX 06(4792)3001
<http://www.ac-academy.com/>
 E-mail : aa@humanweb.net

サンプル問題

次の決算修正事項に基づいて、解答用紙の精算表を完成しなさい。会計期間は平成13年の1月1日から始まる1年である。

期末修正事項

1. 現金の実際手元有高は35,240である。なお、帳簿残高との差額は原因不明である。
2. 売掛金および受取手形の期末残高に対して1%の貸倒引当金を設定する。差額補充法による。
3. 有価証券を56,000に評価替えする。
4. 商品期末棚卸高は50,000である。売上原価は「仕入」の行で算定すること。
5. 消耗品の期末未費消高は2,000である。
6. 備品について、定額法による減価償却費を計上する。ただし、残存価額は取得原価の10%、耐用年数は10年である。
7. 受取利息の見越し分が100ある。
8. 保険料は向こう6ヶ月分が計上されている。保険契約日は平成13年10月1日であった。
9. 営業費の未経過分5,000を計上する。

解答用紙

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金預金	35,260							
受取手形	120,000							
売掛金	280,000							
繰越商品	40,000							
有価証券	57,000							
備品	500,000							
支払手形		90,000						
買掛金		42,000						
借入金		109,460						
貸倒引当金		3,600						
備品減価償却累計額		250,000						
資本金		300,000						
売上		1,730,000						
受取利息		84,000						
仕入	505,000							
営業費	210,000							
給料	331,000							
消耗品費	18,000							
支払家賃	401,000							
支払保険料	6,000							
旅費交通費	103,000							
支払利息割引料	2,800							
	2,609,060	2,609,060						
雑損								
()								
有価証券()								
消耗品								
備品減価償却費								
()利息								
()保険料								
()営業費								
当期純()								

解答と解説

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金預金	35,260			20			35,240	
受取手形	120,000						120,000	
売掛金	280,000						280,000	
繰越商品	40,000		50,000	40,000			50,000	
有価証券	57,000			1,000			56,000	
備品	500,000						500,000	
支払手形		90,000						90,000
買掛金		42,000						42,000
借入金		109,460						109,460
貸倒引当金		3,600		400				4,000
備品減価償却累計額		250,000		45,000				295,000
資本金		300,000						300,000
売上		1,730,000				1,730,000		
受取利息		84,000		100		84,100		
仕入	505,000		40,000	50,000	495,000			
営業費	210,000		5,000		215,000			
給料	331,000				331,000			
消耗品費	18,000			2,000	16,000			
支払家賃	401,000				401,000			
支払保険料	6,000			3,000	3,000			
旅費交通費	103,000				103,000			
支払利息割引料	2,800				2,800			
	2,609,060	2,609,060						
雑損			20		20			
(貸倒引当金繰入)			400		400			
有価証券(評価損)			1,000		1,000			
消耗品			2,000				2,000	
備品減価償却費			45,000		45,000			
(未収)利息			100				100	
(前払)保険料			3,000				3,000	
(未払)営業費				5,000				5,000
当期純(利益)					200,880			200,880
			146,520	146,520	1,814,100	1,814,100	1,046,340	1,046,340

出題の意図：

1. 精算表の構造を理解しているか。決算整理仕訳を正確に仕訳できるか。
2. 損益計算書項目・貸借対照表項目を正確に分類・集計できるか。

解法：

精算表は一見非常に複雑で難しいような気がしますが、実は決算整理仕訳が正確に切れれば、あとは電卓をたたいて数字を横に流してゆくだけです。それほど難しくはありません。しかし、慣れるまでは何回も繰り返して復習してください。日商簿記検定では同じパターンの問題しか出題されませんので多くの問題を解くより同じ問題を徹底的に繰り返した方が効果的です。以下に決算整理仕訳を示しておきます。

現金勘定の帳簿残高の修正 $35,260 - 35,240 = 20$
 (借) 雑 損 20 (貸) 現金 20

貸倒引当金の設定 $(120,000 + 280,000) \times 1\% - 3,600 = 400$
 (借) 貸倒引当金繰入 400 (貸) 貸倒引当金 400

有価証券の評価替え $57,000 - 56,000 = 1,000$
 (借) 有価証券評価損 1,000 (貸) 有価証券 1,000

売上原価の算定
 (借) 仕入 40,000 (貸) 繰越商品 40,000
 (借) 繰越商品 50,000 (貸) 仕入 50,000

消耗品費の計算
 (借) 消耗品 2,000 (貸) 消耗品費 2,000

減価償却費の計上 $500,000 \times 0.9 \div 10 \text{年} = 45,000$
 (借) 備品減価償却費 45,000 (貸) 備品減価償却
 累計額 45,000

未収利息の計上
 (借) 未収利息 100 (貸) 受取利息 100

前払費用の計上 $6,000 \times 3 \text{ヶ月} / 6 \text{ヶ月} = 3,000$
 (借) 前払保険料 3,000 (貸) 支払保険料 3,000

未払費用の計上
 (借) 営業費 5,000 (貸) 未払営業費 5,000

